



中学校において、「活用」の問題の正答率が大きく落ち込んでいるという課題が見られました。

問題番号 5 (1) 選択 (2) 短答

出題のねらい

二つの投書を対比しながらとらえ、それぞれの主張の共通点・相違点を理解することができる。  
二つの投書の内容を比較して、その表現や論の展開の仕方についての特徴をとらえることができる。

2年C (1) ウ

定着確認シートの類似問題から

正答

4 エ

5 敵に見つからないように透明になる方向に進化した生物がいる一方、乾燥に強く、動物に食べられても生きのびるといような強さをもつ方向に進化した草など、方向性は違っても自然界の生物は、生きのびるために様々な方向に進化していることに驚いた。



平成二十四年度 第四回定着確認シート【第一学年 国語】

二 次のAとBの文章を読み比べて、あとの問いに答えなさい。

Aの文章 省略

Bの文章 省略

4 AとBの文章で共通して書かれていることはどのようなことですか。次のア〜エのうち、最も適切なものを一つ選び、記号を書きなさい。

ア 自然界に生きている動物と植物の共存関係。

イ 自然界に生きているクラゲとイネ科の植物の違い。

ウ 自然界の生物が生きていくために身につけている攻撃方法。

エ 自然界の生物が身を守るための工夫や生きのびるための知恵。

5 AとBの文章を読んで、その内容についてあなたが感じたことや考えたことを書きなさい。



平成26年度全国学力・学習状況調査 B 主として「活用」に関する問題でも「複数の資料を比較して読み、要旨を捉える」「複数の資料から必要な情報を読み取る」に課題が見られました。

どのような点に気を付けて、授業改善に努めればよいのでしょうか。

生徒の実態を把握

小学校学習指導要領 第5学年及び第6学年 「C 読むこと」

イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。

カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。



小学校での指導内容が、きちんと身に付いていることがこの問題を解くうえで大切です。「習得」が不十分のままでは、「活用」問題を行っても、正解するのは難しいです。第二次の教材を学習する際に、補充指導を行いましょう。

授業改善を図る

**改善前** 「メディアと上手に付き合うために」 「気になる『あの人』を探ろう」  
※ 読書教材 「旅する絵描き」(物語) 「五重塔はなぜ倒れないか」(説明)  
教科書の教材文をそれぞれ読み取りながら学習を進めていく。



「教材文を読む」「新聞を作る」「読書教材を読む」というように、教材のつながりが見えない単元構成では、生徒に「活用」の力は付きません。



単元を貫く言語活動「新聞作り」を設定し、単元のつながりを意識する。

**第一次** 学習の見通しをもつ。

この単元で、どのような力を身に付けさせるのか、ゴールが見えるように、具体物の提示や学習の流れを生徒に示し、単元を貫く言語活動を意識させる。

**第二次** 教材文を学習する。

教科書教材を学習する目的や必然性を、単元を貫く言語活動と関連させて、常に生徒に意識させる。

**第三次** 学習したことを活用する。

教科書教材で学習(習得)したことを活用させる。

※ 活用の重視のために、第四次を加え、作成した具体物等をお互い評価し合うなど、交流の場を設けることも効果的である。

## 単元を貫く言語活動を位置付けた単元構想例

### 【第2学年「読書と情報」 光村図書】

※ 下から書いていきます。

⑤ 単元の導入で意欲と見通しをもたせる（第一次）には…

- 教師が作成した「気になることをまとめた新聞」を提示して、この単元の学習の見通しをもたせる。
- 新聞は、「だれに」「何のために」読んでもらうか明確にする。（相手、目的意識）



④ その力を身に付けられる指導過程（第二次）は…

- 「メディアと上手に付き合うために」「旅する絵描き」「五重塔はなぜ倒れないか」を読み、要旨を捉える。  
※ 読書教材は、ねらいに応じて教師が選択する。
- 新聞作りの手順を学習する。



③ そのために必要な力は…

- 複数の文章を読み、要旨を捉える力
- 複数の資料から情報を読み取る力
- 自分の考えを新聞にまとめる力



② その力を身に付けさせるのにぴったりの、「単元を貫く柱となる言語活動」（第三次）は…

- 複数の情報をもとに、新聞を作る。



① 単元で身に付けさせたい力は…

情報を比較したりまとめたりする中で、自分の考えを深める。

#### 「活用の力」の力を高めるために

- 生徒の実態分析から、言語活動を行うために必要な力を洗い出し、第二次の「習得」の場で指導を行い、定着を図る。
- 第三次の言語活動により、「身に付けさせたい力」を定着させる。
- 好きな素材で新聞を作るなど、個に応じた学習を工夫する。



教科書の内容を一方向的に教える講義形式の授業では、活用の力は身に付きません。単元を貫く言語活動を設定し、単元で、「身に付けさせたい力」と「めあて」を関連させ、生徒主体の「わかる・できる授業」を行うことが大切です。